

No.3016

移民とホスト集団の異質的選好に関する実証研究
－越境するミャンマー人の農村労働・結婚市場への参入－

信州大学経法学部
翟亜蕾

少子高齢化社会では、移民の受入れが積極的に推進されるようになっているが、移民とホスト社会とのコンフリクトが多発している。そうした中で、異質的な文化要素が移民とホスト社会の融合を阻害する要因の一つとして広く認識される。一方、同質的な文化要素と異質的な文化要素が同時に存在する労働市場において、自ら異質性を選好する移民と雇い主が実在することもしばしば観察される。

本活動は、越境するミャンマー人の農村労働・結婚市場への参入において、異質性が選好される動機について解明し、移民のホスト社会への融合における決定要因を明らかにすることを目的としている。具体的に、中国国境地域における個人・集団を国籍別・民族別に分類し、その雇用と結婚の選好傾向について調査を行う。とりわけ、異国籍・同民族、もしくは異国籍・異民族選好の行動には、決定的な文化的要素は何であるかについて究明する。そのうえで、異なる民族間の選好行動の違いについて解釈を与えてみる。

2019年9月に、第一次調査を雲南民族大学の研究者と連携しながら、ミャンマーと接する雲南省徳宏州の三つの村で行なった。今後、同様の調査と考察を八つの村で深めていき、移民とホスト集団との相互選択の意思決定を明らかにできると確信した。予備的調査の結果に基づき、ミャンマー人移民が集中している主要都市（中国側：芒市、瑞麗、ミャンマー側：ムセ）、および八つの調査村で、労働調節方法、恋愛・結婚状況、人的ネットワークを中心に聞き取り調査、参与観察をさらに2回実施する。

2019年度（2020年2月）及び2020年度（2020年8月）に行う二次調査は新型コロナウイルスの流行により中止をせざるを得なくなった。そのため、二次調査を2020年秋以降に延期するが、調査対象と調査協力機関等が直面する今後の状況や、調査地における自粛の長期化とそれに付随する調査の再度の中止を考慮しなければならない。なお、調査の可能性とその進捗を鑑み、やむを得ない場合は調査研究の内容変更の可能性についても慎重に検討させていただく予定である。